



介護職の人材育成・ 人材マネジメントのヒントを情報発信！

～介護職員及び組織に対する育成をトータルサポート～

発行元：ピーエムシー株式会社

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺 1-35-4

TEL:0256-47-3686 FAX:0256-35-0158

<https://www.pmc-jinzai.com/>

青山学院大学駅伝部を率いる 原監督のチームマネジメント

こんにちは。ピーエムシー株式会社の斎藤洋です。

皆さん、箱根駅伝はお好きですか？

私は駅伝好きの長男の影響で、4年ほど前から観るようになりました。見どころは色々あると思いますが、私は各大学の監督が個性豊かで面白いなあと感じていつも注目しています。その中でもやっぱり目立つのは青山学院大学の原監督ではないでしょうか。

今回は原監督の著書「フツの会社員だった僕が、青山学院大学を駅伝優勝に導いた47の言葉」を読んでみて、特に興味深いと感じた部分をご紹介します。

チームをつくる4つのステージ

原監督は、「良いチームを作るには4つの段階が必要である」と述べています。具体的には下図のような4段階になるそうです。はじめは「監督の命令で全員が動くチーム」、次に「学年長が部員に伝えて動くチーム」、最終的には「部員の自主性とチームの自立」を目標に段階的にチームを育てていくそうです。

この順番を間違えたり、省略してしまうとチームをうまく成長させることができないのだそうです。

ステージ	ポイント
1. 命令型	監督の命令で全員が動くチーム (部員は自分で考える力がない)
2. 指示型	監督が学年長に指示を出し、学年長が部員に伝えて動くチーム (学年長以外はまだ自分で考える力がない)
3. 投げかけ型	監督が方向性だけを学年長に伝え、学年長と部員が一緒に考えながら動くチーム (ここからはじめると部員の勘違いが起これるので要注意)
4. サポーター型	監督が外部指導者を巻き込みながら、部員に対してサポーター役になる (部員の自主性とチームの自律を求めていく)

原監督が考える管理職の役割

「チームをつくる4つのステージ」を実践し、部員一人ひとりが自分で考えるような成熟したチームになると、監督の役割も変化します。

前に出て教えたり管理するのではなく「チームの変化を感じ取ること」が監督の大事な役割になるそうです。

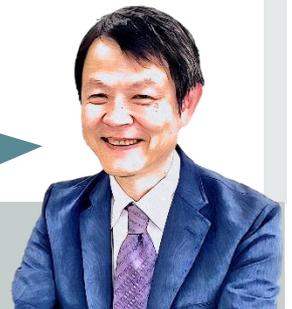
グラウンドではチームから離れた場所に自分を置き、チーム全体の雰囲気や選手たちの動きを遠くから見ます。

監督自身が動くのは、良くない変化を感じた時。原監督は、監督としてチームの些細な変化を感じるために必要なのは、本気で観察することだと言います。日頃から注意深く見ていると、後々に問題になる兆しを「ちょっとした変化」として気づけるそうです。

私はこの本を読みながら「監督を施設長」に、「学年長をリーダー」に例えると面白いなあ、と感じました。

興味を持った方は、是非原監督の本を読んでみてください。

主任研修講師
斎藤の
「つぶやき」



新潟に住んで30年、夏は毎年長岡花火を楽しみにしています。今年は古正寺中央公園でラジオ中継を聴きながらフェニックスを観ました。今年も最高でした！来年を楽しみにまた一年間がんばります！

最後までお読みいただきありがとうございます。

夏の疲れが出てくる頃ですので、

お体にお気をつけお過ごしください。

